

提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会ー 2015」

基本理念『日本一住みやすいまち「たじみ」』

2015年6月20日、21日に市民34人の参加を得て、『つながり』を統一テーマとした討議会を実施しました。市民が『つながり』を通して自助、共助をいかに考え、行動しようとしているかについて意見交換した結果を以下に提言いたします。

討議テーマ1：あなたにとって大切なつながりは何ですか？

市民は日常的にあらゆる場面で『つながりの必要性』を感じており『つながっていたい』と考えています。反面、だんだん希薄になっていく人間関係を憂慮しています。

自らコミュニティの形成を望み、行動する市民として以下のとおり提言します。

1) 気軽に多くの市民が参加できるイベントを企画、拡大することを望みます。

例えばラジオ体操は身近で気軽に参加できるイベントです。毎年夏季に関係団体により市内の公園や小学校グラウンドでラジオ体操が実施されていますが、特定地域での開催であり、域外の市民の認知度は高くないようです。

ラジオ体操を身近な町内単位の公園に拡大することで近隣の市民が気軽に参加でき、挨拶を交わすなど基本的なコミュニティの形成が可能になります。行政には関係団体・自治会と連携して開催場所、時期の拡大を推進することを望みます。

2) 公共交通のインフラ整備と、充実を望みます。

高齢化が進む住宅団地において、交通弱者の増加が加速しています。周辺地域と中心市街地における小型のオンデマンドバスや乗り合いタクシーの運行、またバスの日乗車券や年間パスポートの発行などにより『まちなにぎわい』を創出し、市民の交流が促進されます。あるいは、ボランティアで交通弱者の支援を行おうという市民に、車両の貸し出しや燃料費の補助を行うなどの施策を企画し、アピールすることを望みます。

3) 公園の有効利用を望みます。

公園は多くの人が集う憩いの場です。しかし市内の公園は事故等の未然防止のために、様々な制約事項があります。市民は公園の多様な活用を通して交流機会の拡大を望んでいます。

実験的な運用として、公園を特定して球技やドッグラン、フリーマーケットなどを許可するような施策を望みます。

討議テーマ2：私たちにできる「防災」について考えよう

今後起こりうる災害に対して、私たち自身も備えることの重要性を理解しています。しかし、ハザードマップも各種情報伝達手段も十分に活用できていないと感じています。そこで、防災意識を高め災害時の被害を最小限にとどめるために、以下の提言を行います。

1) 今までにない形の防災訓練の実施を望みます。

学校や自治会での防災訓練は実施されています。さらに参加者を増やすために、従来の防災訓練だけでなく、これまで参加していない人々が参加できるような防災訓練の実施を要望します。例えば、サバイバル講座や防災クイズ、合コンなどのイベントの要素を取り込んだ訓練などが考えられます。また防災マップ(土砂災害ハザードマップ、内水ハザードマップ)をみんなで確認するイベントなども有効と考えます。これらを通して地域全体での防災意識を高めることにつながります。

2) 災害が起こったことを想定し、必要となる情報の提供を望みます。

市や自治会でも災害時の準備をしています。市民がそれらを十分に把握できておらず、災害時に有効活用できないのではないかと心配しています。

各地区の備蓄倉庫の状況を周知してもらうとともに、各家庭で必要となる備蓄リストの情報を教えてもらえれば、私たちの準備も容易になります。

また、ペットも家族同様と考える人が増えていますので、他の自治体で一時的に受け入れてもらえるようなしくみがあると安心です。

3) 災害時に必要な情報が確実に受け取れるしくみの整備を望みます。

現在でも防災無線やメールサービス等は実施されています。ただこれらが災害時にどのように機能するのか、私たちがしっかりとイメージをつかんでおくことが重要だと思います。

FMPiPi やケーブルテレビ、インターネット及び防災無線等が災害時にどのように機能するかの検証をするともに、必要に応じて事前訓練を行うことも検討して頂きたい。また駅前に大型ビジョンを設置するなど、普段から防災情報を流すことで防災意識の高揚を促すとともに、災害時には情報発信源として活用できると考えます。

討議テーマ 3: 私たちにできる「防犯」について考えよう

市民の多くはどんな犯罪が身近で起こっているのか、リアルタイムな情報をいち早く知りたいと思っています。またその情報を防犯に活かさないかを考えています。そしてその中でも自分に出来ることはないか？他の人とともに協力出来る事がないかを模索しています。それを実現するために以下の提言を行います。

1) 統一した防犯グッズの作成を望みます。

自分の家族のためだけでなく、防犯グッズを身に付けて、周りの人への声掛けや、散歩を兼ねた地域の見廻りをする事で、「まちの目」としての防犯効果を高めることが出来るのではないかと考えます。その具体的な方法として、多治見市独自のオリジナル防犯グッズ(例えば「見てます！」ステッカーや、防犯タスキ、防犯をアピールした傘など)を作成することにより防犯意識を高めていきたいと思っています。

2) メールや広報を利用したリアルタイムな情報の提供を望みます。

現代において、振込詐欺やインターネット詐欺など犯罪が多様化している中で、未然に犯罪を防ぐには、リアルタイムな犯罪情報の共有が重要ではないかと考えます。多治見市や学校の不審者情報メール、警察からのメール情報などはあるものの、十分に利用されていないようです。また情報が遅延することにより新たな被害者が出る懸念があります。

市民がリアルタイムで知ることが出来るような防災無線を利用した犯罪情報の提供など、市民がいち早く犯罪情報を共有できるような仕組みを望みます。

3) みんなで防犯意識を高めるような機会の創出を望みます。

市民は多治見市でどんな犯罪が起きているのか知りたいと思っています。個々の防犯意識は高いものの、地域として、または市として犯罪情報等の共有や連携が十分でないと感じています。またお互いに協力して何かをしたいと思っています。

そこで地域としての防犯意識を高められるような機会の創出(例えば個々でつながりが持てるような防犯セミナーや、実際に犯罪に遭った方の体験談など)を望みます。そのような機会の中から、地域パトロール等の自主防犯組織が設立されるような意識改革が出来るのではないかと考えます。

2015 年 9 月 3 日

たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 竹本幸二

